

ベルギーフランス語政府管轄の公立学校に於ける芸術教育の位置

正木裕子

I. 芸術の置かれる場所が無い公立学校の教育

ベルギーフランス語政府管轄下にある全日制幼稚園、小学校、中学校高校に於いて、行政担当官のジャンピエールユバン氏もその説明文で述べているように現在、残念な事に学校内で芸術教育が十分に施されているとは言えない。幼児、児童、生徒にとって人格形成の時期に様々な芸術と接する情操開発教育は重要である。ひいては各個人の社会性を発達させる有益な手段であると位置付ける事ができる。

それゆえにベルギーフランス語政府は行政の対応として定時制公立芸術学校を組織し、そこで自国の芸術家を教員として採用している。生徒にとっては義務教育無償の原則がここでも適用され、高等芸術教育を修了した教師による指導を享受できる。教師にとっては、社会保障をはじめとして自らの芸術活動を続けるための安定雇用を政府から与えられる。この二点はこのシステムの利点である。しかしながら、これら定時制公立芸術学校のみに頼っているのは、一部の希望者を除いて公立学校の幼児児童生徒は、公的芸術教育の恩恵を受ける事は不可能である。

この論文では多民族社会であるベルギーに於いて、教育現場に児童を通学させた体験者としての視点を基に、外国人であり、音楽家であるという自身の立場で考察する。公的機関及び民間団体の芸術教育への取組みの例、その効果と問題点、さらにはベルギーと言う異文化共存社会に於ける公立学校芸術教育の課題を追求したい。

II. フランス語政府管轄の公立学校の現状

2-1) 国際都市ブリュッセル市について

ヨーロッパ議会の立地するベルギー王国の首都ブリュッセル市は国際都市である。EC ヨーロッパ共同体加盟国拡張とともに多くの政府機関、代表部が設置されている。街並や商店も近代的建築や多国籍客をターゲットにした店が目立つ。国の公用語はオランダ語、フランス語そして一部ドイツ語であるが、生活の利便性のためにそれ以外の言葉がしばしば必要になってくる。市内地下鉄のアナウンスに公用語に加えて英語が流れて来る事もその一例である。かつてベルギーが植民地としたアフリカのコンゴからの移民、ベルギー国内に豊富に埋蔵されていた石炭の採出のための労働力として渡って来たイタリアからの移民は多くが定着し二世三世がベルギーに根付いている。彼等の文化圏は依然外国であるもののその多くの国籍はベルギーである。

ベルギーの2010年1月1日の人口統計に依ると、およそ10%弱が外国籍、ブリュッセル市内に於いては30%強、ほぼ3人に一人が外国籍を持つ住民である¹。文化圏が外国であってもベルギー国籍を持つ者はこの数に入らないので、この街の多文化共存の割合が非常に高い事が明らかである。ブリュッセル市内に於いて最も多い外国籍はフランスである。イスラム文化圏各国の外国籍人口はおよそ5.5-6万人程度、外国籍人口の割合のおよそ6%を占めると人口統計を元に予想される。ブリュッセル在住のコンゴ国籍住民登録は統計に依ると7,411とあるが、実際はもっと多い

¹ http://www.belgium.be/fr/la_belgique/connaitre_le_pays/Population/

人口統計 2010年1月1日 ベルギー総人口 10,839,905 外国籍人口 1,057,666 内訳上位順 5位 イタリア 165,052、フランス 140,227、オランダ 133,536、モロッコ 81,943 ポーランド 43,085

と思われる。日本人は 3,129 人、アメリカ合衆国は 3,080 人、難民 4,541 人との記載もある（2008 年 1 月 1 日）²。

2-2) 外国人が多く通学する現在の学校の実情について

当然ながらそこに生活する人々はこれら異文化の共存する環境で子弟の教育を行う事になる。

ベルギーの公立学校にまず求められるのは児童生徒の安全、母国語に次いで第二言語をフランス語とする多数の生徒に読み書き計算を教える事、そして安価に授業時間外の学童保育³を行い親の就労を助ける事であると言えよう。これは自身の経験を持って確信する。このように社会保障の部分でしっかりと制度が組み込まれている。

父兄がフランス語を理解しない場合もある。更に文字教育を受けた経験の無い父兄も実際に存在している。生徒に教育を施す以前の段階で学校と家庭の連絡の伝達がすでに厳しい状況を呈していると言える。児童とその家庭が全くフランス語を理解しない場合は特に厳しく、多くが経済難民として入国して来た人々で、教育が行き届かない場合は成人して就労の機会を得る事が出来ないという悪循環を繰り返す原因になっている⁴。

2-3) ブリュッセル市内の小学校の例

ブリュッセル市内ワテルマルボアフォール区の例を取る。この区は市内南部に位置し 1293 ヘクタールの面積の中 750 ヘクタールがソワニユの森である。2010 年 1 月 1 日総人口 24,263 人の中外国籍人口は 4139 人である⁵。この区には 7 幼稚園 4 小学校(公立学校)がある。そのほかは国から補助を受けた私立学校、または私立インターナショナルスクール、養護学校と 1 王立中高等学校。そのひとつ、ベルギーフランス語政府管轄幼稚園と小学校が一体になった公立学校セードル学園を例に取る。幼稚園 100 名ひとクラス 25 名、小学校 100 名程度ひとクラス 10-15 名程度。校長、教員、事務秘書、放課後清掃職員それから教育補助員という様々な手助けをする職員が働いている。体育、外国語(オランダ語)、宗教、コンピューター教育の専任講師はいるが専任の音楽や美術の教師はいない⁶。

体育大会が毎年近くのスポーツ施設で催される他、5 歳以上は毎週区の送迎バスによるプールでの授業が行われ、スポーツ育成に力が入られている。またこの区はベルギー国内に区の所有物として運営する田舎の農園屋敷⁷があって区内の公立学校に通う生徒は毎年林間学校を一週間の予定で過ごす。給食はまとめて給食センターで委託企業が調理し特に野菜や果物の有機食材使用を強調している。一食 2.5-3 ユーロと安価で生徒は毎日給食送迎バスを利用して給食センター

² 首都ブリュッセル市人口統計 2008 年 1 月 1 日総人口 1,089,538 外国籍人口 327,070 上位 7 位 フランス 46,006、モロッコ 39,095、イタリア 26,695、スペイン 19,426、ポルトガル 16,127 ポーランド 15,645 トルコ 10,516
<http://www.bruxelles.irisnet.be/a-propos-de-la-region/etudes-et-statistiques/donnees-statistiques-par-themes/donnees-statistiques-par-themes/population>

³ 行政の失業対策として学童保育の制度は必要不可欠である；早朝 7 時半から夕方 18 時半まで毎日預けて一月 2000 円弱の課外保育費用のみの負担。

⁴ 一般に多文化共存で知られる次の 4 つのコミューンを任意に選んで 2008 年の統計に依る総人口に対する外国籍の人口数値を比較する。Bruxelles ville 総人口 148873/ 外国籍人口 44065 (29,60%)、Anderlecht 99085/24234 (24,46%)、Molenbeek 83674/20893 (25,00%)、Ixelles79768/33344 (41,80%)。Anderlecht 区には大人にアルファベットを教える公的機関が 16 箇所用意されている。

⁵ <http://www.bruxelles.irisnet.be/a-propos-de-la-region/etudes-et-statistiques/donnees-statistiques-par-themes/donnees-statistiques-par-themes/population>

2008 Watermael-Boitsfort 総外国人人口 3979 EC 外国人 2992 イスラム文化圏各国の外国籍人口 282 人
比較資料 2008 Anderlecht 総外国人人口 24234 EC 外国人 13250 イスラム文化圏各国の外国籍人口 7673 人

⁶ 幼稚園教員養成学校において音楽の授業は時間数が少なく、全く音楽の素養のない学生がその場だけで演奏技術を習得するのはほぼ不可能と思われる。

⁷ La Domaine de Nettine

で食事をする。給食の献立には宗教上の配慮⁸がされている。

コンピューター教育も校内で実施され、環境設備の点では恵まれた環境である事は間違いない。区の保健センターに幼児、児童の健康診断や自閉症等の早期発見を目的とした言語訓練士や小児看護師による定期的診断も施される。

行政も至れり尽くせりで幼児、児童の教育環境を整備している。学業の点ではいわゆる落ちこぼれの生徒を出さないために年度末学力審査で留年制度を採用し、公立学校は懸命の努力をして学業、読み書き計算を教える事に重点を置いている。

次のような実例がある。公立学校セードル学園ラローズレー幼稚園では2008年から2011年まで6名の教員のうち一人、ギターを弾く特技を持ったある教員が大変重宝されていた。毎年クリスマスの学園祭では彼女が伴奏を担当してほぼ同じ歌をポードブル CD にあわせて子供達が歌った。園内にアップライトピアノが一台あるものの、その楽器が使用された例は3年半の中いちども耳にする事が無かった。

履修科目に水泳を含む体育、宗教、林間学校合宿はあるものの美術、音楽は無い。不思議に思われるところである。

2-3- b) 例外 musico-pédagogie

例外としてベルギーフランス語政府義務教育担当大臣マリードミニクシモネの命により、一部の幼稚園小学校担任教諭による音楽学級指導(musico-pédagogie)が行われている。これは音楽の技術のみを教える為ではなく、音楽を通して幼児児童の一般的な発達を促す目的の実験的試みである。この授業の指導を請負っているのはジュネッスミュージカル(民間団体)である。

Jeunesse Musicale <http://www.jeunessesmusicales.be/MUSICO-PEDAGOGIE?lang=fr>

2-4) 学校への移動教室、芸術鑑賞会の実際

音楽美術の専任教師がいないので、学校ではいわゆる「芸術分野の行事の外注」が行われる。

効率や経費を考慮して、これを「教育の分業」と考えると合理的な点もある。前出の公立幼稚園小学校では一月に一回、外部のアーティストが出張公演を校内で行う慣例がある。有料で一回あたり3~4ユーロの父兄負担である。市内の劇場等へ出向く場合に比べ、出張公演を受け入れるメリットは移動が必要無い事である。義務教育は無償の建前であるのでこれらの行事は学校の事情によって行われたり、行われなかったりすると思われる。この公演のデメリットは仮に生徒数が100名以下の小規模な公演だとすると出演者や技術者が複数必要な演目の上演は経費的に開演が難しいと言う事になる。従って、内容は手品や少人数による演劇が多い。複数の劇団や音楽グループが学校向けの公演の委託公演を受注している。

ベルギーフランス語政府の舞台芸術担当部局(Art et Vie)は学校へ派遣するアーティストの選考を行い、自らの推薦プログラムとして各学校に紹介している。各学校は年度始めに希望を提出する。政府、地域から補助金が出される。その内容は広範囲に渡る。150名以上の学童数に対応している。本年のカタログのPDFファイルを資料添付する。

Services général des Arts de la Scène , Communauté française

<http://www.expert-it.com/WAS/Site/Pages/Diffusion/artetvie/principesgeneraux.html>

⁸豚肉を使用しないメニュー、金曜日には魚、季節のメニュー、etc...

民間ではジュネッサミュージカルと言う団体が質の高い芸術鑑賞プログラムを提供している。

Jeunesse Musicale <http://www.jeunessesmusicales.be/Artistes?genre=63&lang=fr>

この二つのプログラム例はいずれも多文化の共存するベルギーならではの国際色を前面に出した出しものが目立つ。

2-5) 父兄側の反応：課外活動参加の呼びかけに対して

出張公演を授業枠内で見ることによって 受動的芸術体験は公立学校内で供給されていると言えるだろう。それでは幼児、児童が自ら何かを発する活動についてはどうだろう。前出のセードル学園の例を再度出す。この学園のある区の教育委員会は過去5年間学童保育の生徒を対象にして“朝から歌おう”と題した事業を実施している。この事業を発案したのは区立のアカデミー校長で王立音楽院のピアノ教授でもあるティエリーフィエベ氏であり、その組織と理想は多文化の共存する都市ならではであり称賛されるべきである。

ここでその内容を説明する。年度始めに、区が任意でこの無料音楽事業への参加を募集する。念のため確認するが、学童保育は朝7時半から夕方18時半までで、1ヶ月の父兄の負担は2000円程度である。授業の始まる前、週に2回30分づつ集まって合唱する。参加者の為に区はオリジナルCDを配布する。年度末に行われる発表会に向けて一年間、5ヶ国語の曲を10曲あまり練習する。ソルフェージュ等の難しい事ではなく外国語の歌を楽しく聞き覚える。イタリア語、オランダ語の可愛らしい童謡、フランス語のポピュラーソング、子供向けミュージカルの名曲、英語の韻をふんだマザーグースの唄、スペイン語のリズミカルなダンス曲、マイケルジャクソンの曲にわたるまで（歌が専門の私が見ても）非常に興味深い内容である。講師はプロのポピュラーの歌い手で、1人で区内の全ての学校を巡る。11校あるので1校あたり2～3週間に1回の割合で児童生徒に指導。その他の回は学童保育担当教育補助員が指導にあたる。このような活動が独自に行われる事を知り、私個人はさぞや申込が多いだろうと親しい友人を誘って息子の参加を登録した。しかし2010年の秋、応募者は生徒110名のうち5名に過ぎなかった。そのうち4名は息子とその仲良しの3名の友達だった（2011年は何と2名の申込み）。数人の学内の友人父兄に尋ねてみると、「面白そうではあるけれど始業前の時間が自らの予定に合わない」という理由が多かった。学校側でも特に参加を呼びかけていない。そのうえ家庭事情、及び父兄の関心の優先度に由来する所が大きいと感じる。この事業が学校の父兄の興味を惹いていないことは残念な事だと思う。同じ区のフタエ学園では参加者が多く、学校の教育補助員も大変張りきっている様子が見えられた。学園内にそのような雰囲気作りが出来ているのであろうと想像する。歌う曲のCDを一度でも耳にすれば父兄の考えも変わるかも知れない。広報の方法や学校側の推薦の仕方でも随分と反応は変わってくる事と思われる。異文化共存社会に於いて、情報がただでさえ伝わり難い中全ての父兄に“ちょっと注意を惹いて貰うこと”の難しさがうかがわれる一例である。

2-6) 定時制公立芸術学校について

それでは歌ったり踊ったり絵を描いたりする事の大好きな生徒児童はどこにそのエネルギーをむける事が出来るだろうか。絵画好き、楽器の演奏が好きな児童たちは芸術を学ぶ機会を与えられないのであろうか。残念ながら自ら強く希望しない限り音楽や図工の授業を与えられる事は無い。日本の義務教育で音楽や図工が取りあげられている事と比較すると、その代わりになる物に別途公立のアカデミー（定時制公立芸術学校）と呼ばれる教育機関がある。時間外公立中等教育

として位置付けられ、そこに勤めるのは王立高等芸術教育修了同等以上のディプロムを所持する常勤の教師である。この機関は高等芸術教育機関である王立コンセルバトアールの卒業生にとって最も確実に安定した就職先となっている。

しかしその実情はベルギーフランス語政府の行政担当官ジャンピエールユバン氏もその説明文で述べているように芸術教育の内容及び規律の詳細は直接関わりのある学童を持つ一般家庭に広く周知されていない。従って話題にのぼらないが故にこの恩恵を享受していない児童生徒が大変多いと容易に推測される。

これは音楽家としての私の個人的な意見であるが、楽器を演奏する技術に関して、幼児に対する教育は本人の集中力はもちろんであるがそれを取りまく保護者の意向と関心の度合いに依存する部分が大きい。それは公立芸術学校に通わせる場合にも顕著に共通している。

冒頭に述べた通り、ベルギーフランス語政府は義務学校教育の時間外に公立の芸術学校を組織している。しかしその公立教育を享受するには実はいくつかの難関を突破する必要がある。希望者は年度始めに各区にあるアカデミーに登録しなくてはならない。その手続きには毎年長蛇の列が出来る。そこで第一の振りわけの感がある。各クラスには定員があるので、急ぐ必要がある。また楽器によっては個人レッスン希望者が殺到し年単位で空席待ちを予約する程である。例えば、人気のある担当教授の許で子弟に楽器を習わせたいと思う父兄は覚悟を決めて年単位で入念に準備を進める必要がある。そしてめでたく毎週 20 分の楽器の実習授業に通いはじめると同時に週 2 回 60 分のソルフェージュに送り迎えを必要とするのである。ベルギーの場合は安全上の理由から小学生でも通学の送り迎えは父兄が行う場合が殆どであるので必然保護者の時間を必要とする。そのような事実からいきおい、アカデミーに通う事の出来る生徒児童の数は少なくなっていると言える。

前出ワートルマルボアフォール区のアカデミーの例を取る。

(音楽コースについてその規則を抜粋して紹介)

- この学校では音楽と演劇とダンスを教えている。
 - 学校にはピアノのある教室を備えている。防音設備がある。
 - ピアノ伴奏者がいる。生徒は依頼して伴奏してもらう事が出来る。
 - 打楽器、オルガン、チェンバロの生徒へは教室の楽器での練習の為に無料で開放している。
 - 楽器貸出しを行っている(ギター、一年で 50 ユーロ、保険付き。そのほか、60 ユーロ)
 - 500CD を保有するメディアテークを毎日開放している。
 - 生徒はアカデミーの定期発表会、区内の施設での演奏に出演する機会が与えられる。
 - 12 歳以下は登録無料
 - 器楽科、声楽合唱科の 2 コースに分かれる。個人レッスン、及びクラス授業がある。
 - 音楽基礎コースの履修が必須(5-7 歳準備コース、7-13 歳ソルフェージュ、14 歳以上の為のソルフェージュ)
 - 1 年に数回テストがある三年次以降は年度末に公開試験を行う。
- 等である。

なお、アカデミーについて、その詳細を紹介するために「参考」として本稿の最後に L'ESAHR 説明文の翻訳を掲載しておく。

Ⅲ. そのほか芸術教育への取組み

3-1) 公的機関

3-1-1 オペラ座の解放、ヨーロッパレベルでの取組み

Journée Européennes de L'opéra http://www.opt.be/informations/evenements_bruelles_journees_europeennes_de_l_opera_/fr/E/52183.html

2012年には第5回目となるこの催しが5月の週末に予定されている。ヨーロッパ全体のオペラ劇場が主導して、建物を一般、青少年に無料で開放する試みである。生徒児童にとって、イタリア式劇場に足を踏み入れる非日常的体験は印象深い。音楽の公演の他に裏方の見学ツアーも企画される。2011年5月のブリュッセル王立モネ劇場では、舞台のスクリーンにアニメーションを上映（トムとジェリー、音楽編他）幼児にも容易に理解できる内容であった。

3-1-2 日曜ブレックファストコンサートのアイデア

ブリュッセル市内の公立コンサートホール、「ボーザール」では週末の午前中に家族向けのイベントを行っている。朝食付きである所が特徴である。ゆっくり朝食を食べ、それが終わった頃子供が年齢別音楽アトリエに参加し親が演奏会を聞く。「フラジェ」では児童生徒向けの映画の投影を日曜午前に行っている。レストランを利用して、ランチ付きである。

Bozar Sundays <http://www.bozar.be/activity.php?id=11487&lng=fr>

Jeunes Fans de Ciné <http://www.flagey.be/fr/programme/8702/jeunes-fans-de-cine/djibril-diop-mambety>

3-1-3 美術と音楽を関連させたイベント

同上、ボーザールには演奏会場の他映画、広大な絵画展示会場が複合している。その全てを総合して、あるテーマのもとに家族対象の行事が年に数回行われる。一昨年はイタリアルネッサンス、昨年はメキシコ、今年はブラジルなどである。ベルギーで毎年開催されるユーロパリア文化祭の一貫事業として最も一般市民にわかりやすい行事である。オルタ建築で有名なボーザールのメインコンサートホールにおいて無料のシンフォニーオーケストラ公演を幼児に対して開放してもらうなどの企画は下記の通りである。

Big Bang Festival <http://www.bozar.be/activity.php?id=10583>

Family Day

<http://www.bozar.be/agenda.php?dates=2011-11-27&category=&keywords=&cible=&location=&type=&external=&ptm=0&ads=1>

3-1-4 公立子ども劇場 Théâtre Montagne Magique

Théâtre La montagne magique <http://www.theatremontagnemagique.be/>

ブリュッセル市内中心部に位置するこの劇場は公費によって運営され、幼児から青少年を対象とする子供のための場である。その出し物は基本的にフランス語であるが、各国の観客の絶大な支持を得ている。特に幼児向けの公演は座席数が少ないこともあってほぼ毎回満席である。入場料も大人 1000 円以下で年度初めから電話予約する必要がある。

非常に素晴らしい劇場であるが、観客の数が限られている。文化助成があつてこそ成り立つ劇場である。下記のアントワープ市の劇場と比較するとその基礎理念の違いが目立つ。

またこの劇場は演劇の教育機関としてもアトリエを開いている。

ほかに、ブリュッセル市内のフラジエ広場近く、ダンス公演で有名なマルニ劇場では年末恒例に子供演劇のフェスティバルを行なっている。

Théâtre Marni Festival Noël au Théâtre <http://www.ctej.be/cms/index.php>

一般劇場ではあるが、ブリュッセル市内のワートルマルボアフォール区立公民館ヴェネリー(La Vénérie)では前出 Art et Vie が行う幼児児童むけ舞台芸術フェスティバル「Rencontre de Huy」の受賞作品の上演が予定されている。地域住民にとっては地元で観劇できることが有難い。子供向けのイベントを積極的行なっている地域の区民館として、ウォルウェーサンランベルも挙げられる。

<http://www.wolubilis.be/fr/home/>

3-2 民間団体

3-2-1 私立音楽学校

小学生の場合アカデミーの音楽実技個人授業が週に 20 分と短く、必修のソルフェージュがそのほか週二回あるという事情が父兄の都合に合わない場合など、通常の音楽学校が一般のレッスンをする。特に、0 歳からの早期教育の分野では（アカデミーの年齢制限が 5 歳から 7 歳からと厳格であるために）、私立学校の需要は大きい。料金は一般物価に比較すると割高である。春休み、夏休み等の休暇中に一週間単位で講習を企画する音楽保育プログラムは月曜から金曜まで、朝から夕方まで 5 日間（食事おやつ付き）で 200 ユーロ「Chaise Musicale」と高価であるにも拘わらず人気が高い。ほか各種音楽学校、ダンス学校、絵画教室が開かれている。

« Casse noisette » Woluwé-Saint –Pierre <http://www.cassenoisette.be/> 20euro/30min.

« Chaise Musicale » Ixells <http://www.chaisemusical.be/> <http://www.chaisemusical.be/>
15 euro/ 30min.

« Ateliers des Arts du Spectacle Lilian Lambert » Bruxelles Quartier Louise
<http://www.lilianlambert.be/>

etc.....

ジュネッスミュージカルは公的補助金によって運営される民間音楽団体である。幼児の音楽講習を毎週水曜日にボーザールで行うなど意欲的な活動を行っている。しかし、圧倒的に定員が少ない。フラジエやボーザールを会場に土曜日, Sa-me-dilaMusique と題する親子向け演奏会を企画している。しばしばフランス語の公演、オランダ語の公演の両方が用意される。

Jeunesse Musicale <http://www.jeunessesmusicales.be/Accueil?lang=fr>

Sa-me-di la Musique <http://www.jeunessesmusicales-bxl.be/>

3-2-2 そのほか (France du nord、近隣の例)

ベルギーオランダ語政府アントワープ市には (ブリュッセル市から車で 30 分) ミュージカル、バレエ、子ども向け演劇を上演する大規模な劇場がある。

<http://www.musichall.be/nl/>

客席数 2000。公演の入場料は高価であるに拘らず、人気が高い。したがって、劇場独自の採算性が高いと思われる。(例) 屋根の上のバイオリン弾きミュージカル (29-59euro déc. 2011)。

2011 年 10 月、北フランスの都市 (Quiévrechain 人口 5,816 人 4.7 km²) で行政が主導してスポーツと文化の融合事業が行われた。具体的には柔道の生徒たちがオペレッタ上演の中で"劇中劇"として技術のデモンストレーションを行うと言うものであった。大変奇抜なアイデアではあるが、芸術教育をより広い一般的な物とするためのアイデアとして敢えて提案する。

<http://www.annuaire-mairie.fr/ville-quievrechain.html>

3-2-3 補足：個人で働くアーティストの社会保障について

美術、音楽、演劇等に従事する個人、及び舞台技術者に代わって会計事務を行ってくれる社会保障事務所が幾つかある。アーティストの国籍に関わらず利用出来る。音楽事務所を通す場合と比べると手数料が格段に低い。たいへん複雑な経理を代理で行って貰える。また消費税番号の使用が可能になる。

Agences Sociales pour les Artistes (ASA)

<http://www.sabam.be/website/data/brochurestatutfr.pdf> (p.8 参照)

Merveille+Interim http://www.merveille.be/merveille_plus_interim/interim.html

SMart asbl <http://www.smartbe.be/fr/>

IV. 結論：異文化共存社会に於ける公立学校芸術教育の課題

今後の課題として各行事の広報に力を入れるべきである事を感じる。わかりやすい情報を対象となる児童生徒に向けてちょうどよい時期に少しずつ伝える事。そうでないとどんなにすばらしい企画もそれを本当に必要にしている家庭に届かない。小学校における留年生徒数は年々増加しており今の公立学校義務教育にどれほどの余裕があるかはその学校の状況によると思われるが、少なくともアカデミーの受講申し込みのお知らせは全生徒に積極的に行われるべきであろう。

多国籍国家であるベルギーに於いて情報を伝達するためにより一層言葉の壁を減らす必要を実感する。これは芸術教育に限った課題ではないが外国人がその国の教育システムを享受するという観点に立つと、やはり自らの所属するコミュニティにおいて共通言語を使用する、もしくは使用する努力をすることは第一前提であろう。文字を読む、言葉を理解するといった基本的な部分

から行政補助を必要としている外国人も実際に共存している。外国人大人向けのフランス語社会教育が盛んに行われている事は言うまでもない。こうした地域、個人の地道な活動が公立芸術教育をより一般に浸透させる鍵であるといえよう。

参考(翻訳)

ベルギーフランス語政府定時制中高等芸術教育 AGERS

L'enseignement secondaire artistique à horaire réduit en Communauté française (L'ESAHR)⁹

はじめの言葉 /行政担当官 /ジャンピエール ユバン

学校はとりもなおさず文化との触れ合いが大変容易な場所である。

そのような中で教育機関は各個人に社会性を育む機会を提供するのである。

2006年3月リスボンに於いて、ユネスコの後援を得て開催された「21世紀に向けての創造性能力の発達」と題された芸術教育に関する国際会議において、参加した各政府組織は、人格形成時期における芸術分野の影響の重要性を認識し、今後の芸術と教育行政のよりよい融合、一体化に向けての宣言を採択した。

実際のところ義務教育の現場において児童生徒のための芸術の技術指導、及び芸術情操教育開発のための時間は殆ど時間が用意されていない事を認めざるを得ない。しかし義務教育課程とは全く別にフランス語政府のL'ESAHRと呼ばれる組織がある。それはそこに通う生徒に芸術を通して自主性の確立や社会性の発達、自己変化能力を培う助けを行っているのである。

この教育期間のもうひとつの特徴はそこに通って来る人々である。それは青少年が大人達と肩を並べて学ぶ事である。

ある者は音を、色を、形を追求する。そして空間や時間を有意義に過ごし使う事を覚える。

自分なりの意思伝達をする。創造性と感性を発達させる。それぞれが自分の自由な空間を創造して行く。またそのほかの者は自らの潜在的能力によって、心の安らぎのために新しい扉を開く第一歩を踏み出すのである。

この教育の目的にはさらに、生徒によりレベルの高い芸術教育へ移行して行く為の準備を与えようという役割も踏まえている。

L'ESAHRに興味を湧いてきましたか。どうぞこの案内書に目を通して下さい。そして学校組織教育内容を御覧下さい。

L'ESAHRの紹介 /

フランス語政府の芸術教育には複数の階等に組織されている

高等芸術教育

中等教育

義務教育全日制、中高等学校教育の一部として、
義務教育全日制、中等芸術教育、
非義務教育、中等芸術教育

中等芸術教育

義務教育時間外 L'ESAHRと称される定時制中等芸術教育

ここではこの最後の項に付いて述べる。その教育は明らかな成功を収めているにも拘わらず、その存在や内

⁹ 翻訳上の追記:この文章にはベルギーのみで使われる行政教育用語がしばしば登場し、言葉の意味をそのまま日本語に出来ない。その例として:Pouvoir Organisateur(管理権威者)、Formation Musicale(音楽入門実用講座)、L'Enseignement à horaire réduit(定時制教育)などの表現がある。そのつど出来るだけその意図を汲みとり、さらに文中で解説を併記する。

site : www.enseignement.be Administration général de l'Enseignement et de la Recherche Scientifique

容はよく一般に知られていないその理由として、(直接生活とは関わりの無い) 文化に関する事項であると同時に L'ESAHR が一体どのような教育を施し目的を持っているのか その概要を広い一般大衆が自ら望んで知らなければならない点が挙げられるかも知れない。この教育の目的は様々な知識を身につける事を土台として生徒個人の表現力、芸術感性の創造性を豊かに発達させる事にある。それは各生徒がのちに延長して職業的芸術訓練を続けるつもりがあるかどうかには関わらない。

学校と教科

フランス語政府管轄内に L'ESAHR は 112 施設を有し、通常アカデミーと呼ばれている。ほかに音楽コンセルバトアール、芸術学校等と名称を持つものもある。フランス語政府管轄の公立芸術学校の他に芸術教育をより一層網羅する多くの施設が存在している事は数に入っていない。アカデミーで教えられるのは次の四つの芸術分野である。:

音楽 / 演劇 / 舞踊 / 造形映像空間芸術

3校のみがこの4つの分野を同時に教えているものの歴史的機能的な理由によって、音楽演劇舞踊を教える学校と絵画造形芸術学校との区別が存続している。

音楽アカデミー、演劇アカデミー フランス語政府は現在 92 校の音楽アカデミーを数え 72 校はワロン地域に、18 校はブリュッセル地域にある。主に音楽を教えている事は勿論であるが、そのほとんどの学校が演劇科を有する。60 あまりの学校が舞踊科を存続させている。

美術アカデミー アカデミーもしくは芸術学校は 23 を数える。13 はワロン地域で 10 はブリュッセル地域にある。そこでは造形映像空間芸術に関連した分野の授業が行われている。

その教育組織

定時制の中等芸術教育は 103 校に於いて 区の権限において管理されている。つまり行政補助対象となる公的教育の分類に属する。9 校は ASBL という形の財団によって運営されており、これらの場合は行政補助対象となる私立教育の無宗教学校¹⁰の分類に属する。

フランス語政府の役割とはたらき

1998 年 6 月 2 日付けの定時制芸術中等教育条例によると、フランス語政府は補助金を出し、管理検査を行う役目を果たす。一方で補助金によって校長、副校長、教員、そして教育補助員の給料を全額負担する。そして、学校施設の必要経費を負担する。その金額は、登録して規則正しく出席している¹¹ 生徒の数に応じて管理権威者である区に支払われる。他方で行政の任務によって補助金の必要性の規則が正しく守られているかどうか管理検査を行う。検査任務によって、フランス語政府は、学業と生徒への授業内容の水準を確かめる。この検査は学校の協定を尊重して行われるもので、授業組織、授業内容、そこで用いられる教育法の選択は管理権利者である区が自由に採択できるものとする。

生徒

L'ESAHR の特徴の一つは非常に多様な人々に対応している点である。生徒の年齢は広範囲にわたる: 5 歳児から青少年そして一般。授業や作業場はそのような理由で主に義務教育時間外に設定されており、児童生徒や一般の職業人にとって参加を可能にしている。2005-2006 年度には全分野を総合すると 96,000 名以上の生徒の登録があり、この教育制度が功を奏して入る証と言える。L'ESAHR に通う生徒の総数のうち半数以上は 5~11 歳である。そして 4 分の 1 が 12~17 歳の青少年、約 5 分の 1 が成人である。他の分野とは反対に美術学校では、そのほとんどの生徒が成人である。

¹⁰ ベルギーの行政補助対象となる enseignement libre (公立に対して私立) には多くのカトリック系の学校その他が存在する。

¹¹ 登録のみで学習の実態が無い学生ではないと言う意味。

教師

L'ESAHR の教師は芸術高等教育のディプロマを所有する者である。分野によっては芸術高等教育で教えられていないもの、例えば舞踊の場合、実績によって、もしくは、実績と関連した音楽演劇美術のディプロマを L'ESAHR で教職に就くためのものとして認証される事が可能である。そして、美術分野では、アカデミーの上級課程を卒業した者も教職に就く事が認められている。そのためにはディプロムの修得の後、5 年間の実績を認証されないといけない。L'ESAHR の教師の法的身分は公的補助のある教育の教員、または公的補助のある私立教育の教員である。常勤教員として任命されるには教員免許を必要とする。それは コンセルバトアールの教職課程修了若しくは L'ESAHR の管理権威者が発行した教育課程の職業適正証とする。

教育委員会

全ての管理権威者はその中で組織する学校ごとに教育委員会を制定している。それは「総会」と「学習と入学許可委員会」で構成されている。「総会」は校長と教職員全員が参加し授業の構築について、そして授業と生徒の試験の形態について管理権利者に意見を提出する。「学習と入学許可委員会」は入学許可、生徒の矯正、裁判沙汰になった場合の教育上の協議、評価の基準について、生徒への罰則、合格 不合格を協議する。その後証書とディプロムが授与される。

L'ESAHR の目指すもの

L'ESAHR の三つの目的は次の点である。

1. 生徒の芸術性を目覚めさせる。
2. 生徒が一人で創造できる方法を身につけさせる。
3. より高度な芸術教育に進むための準備をする

カリキュラム

- **一般基本芸術教育** いわゆる基礎的な教育に於いて、授業は各課程に分けて行われる。また就業年にもよる。課程を追って順番に学習して行く事は、幼い児童が入門から実技演習に入り更に最終年までの全体的指導をまとめる事である。具体的に四つの課程に分かれている。

準備課程 幼児に初歩的な芸術表現、語法、実践を手解く

入門課程 実技の入門

中級課程 短い課程: 実技授業この課程のみで証書が授与される

上級進級準備課程長期課程 実技授業/レッスン時間の延長/ディプロムの授与

- **補完芸術教育** 基礎芸術教育の補完として生徒に義務付ける、または提案された関連分野を含む。いくつかの授業は、特に音楽、美術の分野に於いて基礎芸術教育とは無関係に授業を受ける事ができる。基礎芸術教育とは反対にここでは課程を経て学習を進める組織は無い。

音楽分野

音楽分野の芸術基礎教育は次の様に分かれる。

- **音楽入門実用講座**¹²

- **器楽実技**

- **声楽実技**

5 歳以上の児童は準備課程音楽入門実用講座、器楽入門、7 歳以上の児童は入門課程声楽入門の授業を受ける事が出来る。

¹² その内容は主に視唱の訓練などのいわゆるソルフェージュ授業である。入門課程と中級課程に於いては授業は生徒の年齢に応じて行われる。

- 音楽入門実用講座の授業は学級授業、または小グループによる授業として器楽入門、声楽入門分野で生徒の年齢に応じて行われる。準備課程ではこの授業は若い生徒たちに音の響きと音楽の創造性の世界を導く事を目的としている。そのほかの課程では、この講座は後に想像と表現が豊かに出来るようになるための視唱とリズムの把握、聴音、楽曲分析の基礎作りをする事を目的としている。この芸術基礎授業は入門課程以上に在学して器楽実技、声楽実技を学ぶ生徒にとって必修である。

- 器楽実技 ここでは次の楽器を挙げられる。

クラシック音楽の楽器 弦楽器（ピアノ¹³、バイオリン、ギター他） / 吹奏楽器（木管、金管） / 打楽器
古楽器 （チェンバロ、ビオラダガンバ 他）
ジャズ楽器

基礎芸術教育に加えて、音楽学校では、数多くの補足授業を行っている：室内合唱、音楽史、楽曲分析、ジャズ一般講座、リトミック、体操、合奏、ジャズ合奏、室内器楽、移調法、オペラ、室内楽歌曲、鍵盤及びギターによる伴奏。

演劇分野

演劇分野の基礎芸術教育は次の様に分かれる。

- 発音法

- 朗読法解釈

- 演劇解釈

これらの授業は5歳以上の生徒が準備課程に於いて発音法を、8歳以上が入門課程に於いて朗読法を、12歳以上が入門課程に於いて演劇解釈を受講可能である。芸術補足授業として、「発音正音法理論と実用」、「発音、朗読、演劇のための公演技術と創造性のアトリエ」、「発音のための基礎技術」、「朗読または演劇」、文学史、演劇史、ダンスがある。

「発音、朗読、演劇のための公演技術と創造性のアトリエ」は3つの基礎芸術教育を学ぶ生徒に、実際の観客を前に演劇や詩の独自の公演を実施する機会を提供できる仕組みである。

舞踊分野

舞踊分野の基礎芸術教育は次の様に分かれる。

- クラシックバレエ

- モダンバレエ

- ジャズダンス

これらの授業は5歳以上の生徒が準備課程に於いてクラシックバレエ、モダンバレエを、10歳以上が入門課程に於いてジャズダンスを受講可能である。補足講座として演出表現法、バーオソル¹⁴、動作の考察、舞踊史、上演目録¹⁵、ポアント¹⁶、男子のためのダンス特徴のあるダンス、伝統的ダンス、タップダンスがある。

造形彫塑空間ビジュアルアート分野

複数科目専攻（一度に複数の科目を学ぶ教育方法 Formation pluridisciplinaire）が準備課程と入門課程に於い

¹³ ここではピアノは鍵盤楽器でなく弦楽器に分類されている。

¹⁴ バレエストレッチとも呼ばれる基礎レッスン。バランス筋力柔軟性を床運動（sol）で身に付ける。

¹⁵ おそらく古典レパートリーを意味するものと思われる。

¹⁶ トウシューズを使ったつまさきだちの踊り。

て、生徒の年齢に応じ基礎的芸術語法と表現の学習の手解きを目的として行われる（線、色、形、三次元芸術 volume の個々の知識を学習）。このアトリエは6歳から準備課程に、青少年成人は15歳から入門課程に入学できる。

各学校は複数科目専攻の授業を段階別進級制、または分割制によって三つの異なった形式の何れかによって行う事ができる。

- これを一つの別格講座として
- 年度によって進度が変わる幾つかの分野を続けて学習する方法
- 生徒自身に一つの専門分野を選択させて、他方、必修として他のアトリエに於ける基礎事項を履修する。この講座は中級課程に於いても芸術の豊かな知識を習得する為に引きつづき履修する事が出来る。中級、上級課程に於いては生徒は異なった部門の基礎芸術教育の中から専門を選ぶ事が出来る。
- **工芸**／職業芸術鍛冶、家具製本、宝石、ステンドグラス、芸術作品の保存と修復
- **グラフィックデザイン**／素描デッサン、絵画、イラスト漫画、広告絵画、コンピューターグラフィック
- **印刷**／版画、リトグラフ、セリグラフ¹⁷、写真、アニメーション映画、映画ビデオ音声、コンピューターグラフィック印刷
- **インテリア装飾**／インテリアコーディネート、演劇用の装置
- **服飾**、タピスリー、織物、染色、衣装（お面飾り）レース
- **大型芸術**／大型絵画、大型彫塑
- **三次元芸術**／彫刻、彫像的陶芸
- **焼きもの**／土器、陶芸、金属、ガラス工芸

補足授業として、建築デザインと模型製作、写真工学、ガラス工学、七宝と土の工学、芸術と芸術形成の歴史は補完課程に於いて必修である。

入学条件と校則

芸術教育の授業入学許可を得るためには生徒は次の条件を満たさなければならない。まず、1学年が始まってから12月31日までを基準として課程や専攻分野の規定の定める最低年齢に達していなければならない。毎年ごとに示される金額：2006-2007年の一年間の授業料は147ユーロである。いずれにしても12歳以下の生徒および小学校在生は無料である。12歳から17歳までの学生で全日制のフランス語政府公認の社会教育校に通う生徒は減額される。59ユーロ。他の学校に既に登録している生徒および全日制中等芸術教育また職業訓練校様々な階層に属する人々は社会的要因によって学費免除される。

受講または進級するためには、生徒は芸術的理解を習得しなければならない。それは学級と入学委員会で審査が行われる。もし不合格のばあい生徒は2回以上同じ学年度の授業に登録することができない。準備課程以外の課程で行われる授業は全課程修了の予定年数に3年を足した年数を超えては受講できない。

この原則に加えて生徒は、最小限単位の毎週の授業に出席しなくてはならない。この最小限は授業内容と課程によって異なってくる。入門課程の音楽授業は例えば生徒は50分の授業を2回、同じ内容のもの、2つの異なった内容のものを受けると正式な生徒であると見なされる。また強調しなくてはならないのは同分野の同課程で複数の学校に通っている場合でもその授業の合計時間が足りている場合は正式と認められる。生徒が正式であるためにはその出席率が足りていなくてはならない。10月1日から1月31日まで2割以上無断欠席があった場合、それ以降2割以上欠席があると年度末試験を受けることができない。

成績の評価

¹⁷シルクスクリーン：木の上、ガラス他の上で印刷する技法。

全日制の教育に倣って、定時制中高等芸術教育は生徒それぞれの生徒が芸術能力と教育が修了するまで訓練し基礎技術を習得していくこと、それぞれの課程を修了していく時点で完成していくことを目的としている。入門課程、中級、上級基礎芸術教育課程に登録している生徒は次の内容によってその専門の授業内容の基盤により次のような項目によって専門分野の能力を定義評価される。

- 芸術性 芸術語法の一貫性の認識能力を学ぶ
- 技術 それぞれの分野において各要素の用法を把握する能力を学ぶ
- 自立性 発見、発達と一人で創作する能力を学ぶ
- 創造性 芸術語法を自由に使って独自の創作を目指す能力を学ぶ

修了証

L'ESAHR は芸術基礎授業のそれぞれに証書およびディプロマを発行する。

—証書は基礎芸術教育の入門課程、中級課程、または造形映像空間芸術分野の上級進級準備課程短期課程において合格した生徒に発行される。

—ディプロムは上級進級準備課程長期課程の合格者に対して発行される。

L'ESAHR の発行するディプロムはそれをもって教職の資格を与えられるものと認められない。

例外として造形映像空間芸術の分野において上級進級準備課程長期課程において発行されたディプロムは5年間の実績を伴うという条件付きでこのディプロムの保持者に対して L'ESAHR の教育機関で複数科目科、または専攻分野で教鞭を取ることができる。Institut de Rythmique Jacques-Dalcroze de Bruxelles 校のリトミック、体操の授業において発行されたディプロムもまたその専門分野を L'ESAHR の教育機関で教えることができる。

添付 L'ESAHR 校一覧とその所在

省略